

SUZUKA UNIVERSITY LIBRARY NEWS



2025 年度
8 月号

こんにちは！ 附属図書館です。



毎日暑い日が続く『夏』



せっかくのお休みだから出かけたかった！！ でも暑い！！ 無理！！
そんなときは、麦茶でも飲んで『夏』を感じながら、涼しいお部屋で
読書をしてみてはいかがでしょうか。

A vibrant banner for new arrivals. It features several book covers: '名画は嘘をつく' (The Masterpiece is Lying), 'ブラック・ショーマンと名もなき町の殺人' (Black Showman and the Murder in an Obscure Town), 'アンパンマンとびいぐもり' (Anpanman and the Fog), and 'バナナうんち' (Banana Poop). There are also decorative elements like colorful fireworks, sunflowers, and a bowl of coffee. A green-bordered box on the right contains the text '新着本' (New Arrivals).

新着本

真下ゼミ学生による造形作品

[こども教育学部]

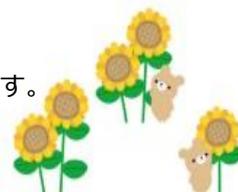


～ 迫力ある作品・可愛い作品 ♥ 素敵な作品ばかりです ～



【お知らせ】

- * 8月 5日(火) ～9月 30日(火)まで、夏休み期間中のため午後5時閉館です。
- * 8月 9日(土) ～8月 17日(日)まで、夏季休暇のため閉館します。
- * 8月 25日(月) ～9月 15日(月)まで、蔵書点検のため休館します。



長濱 ねるさん：俳優 おすすめ本

『 I 』

西 加奈子 / ポプラ文庫



私自身大好きな作家・西加奈子さんの一冊。

西さんの作品と小学生の時に出会って以来幾度となく救われてきましたが、その中でも「i」は特に大切な一冊です。この本を読んで、自分は自分でいいんだ。好きでも嫌いでもなくていい、とありのままに存在することを受け入れるきっかけになりました。

【メッセージ】

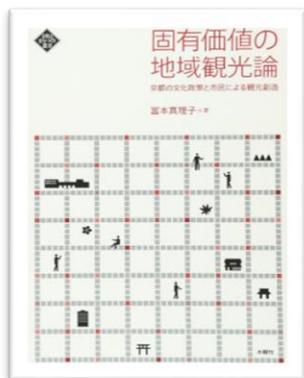
本は出会いだと思います。

読んでみてハマらなかつたり、途中で億劫になっちゃうこともあると思います。

そんな時は私は読むのをやめてみます。それでも読書を続けていると、きっと世界が少し変わるような、呼吸がしやすくなるような、そんな体験が待っていると思います。素敵な出会いがありますように。

『 固有価値の地域観光論 (文化とまちづくり叢書) 』

水曜社 / 富本真理子



大学院研究科長・教授 富本 真理子

私が、社会人大学院生時代に、京都在住時に携わっていたインバウンド向け日本文化体験プログラムを中心に、学位論文の一部を修正・改変した書籍です。

博士前・後期課程の5年間で、普通の主婦だった私がインバウンド業界に巻き込まれていく過程で抱いた素朴な疑問が、研究の動機となりました。

博士論文は、学会誌や院生論文集に掲載された論文を一貫したテーマでまとめ、調和を図ったものです。したがって、本書の各章はもともと論文として執筆されたものです。

学会誌掲載の可否をいつもドキドキしながら待っていたことを思い出します。あの頃は論文執筆と、仕事での新企画立案、営業活動を並行し、パワー全開の毎日でした。日本文化体験プログラムで出会った外国人観光客との会話は、論文資料としても貴重な洞察をもたらしてくれました。また、京都市内での営業活動を通じて、某有名旅行ガイドブックのライターや体験型観光に特化した旅行会社の社長にお話をうかがえたことも、大変有意義で楽しい経験でした。

現在は鈴鹿大学で観光関連科目を担当していますが、本書を執筆した2010年頃のインバウンド事情は、残念ながらすでに“オワコン”となっています。

2000年代には欧米の旅行者が主流でしたが、今ではアジアからの旅行者も同様に京都観光を楽しんでおり、オーバーツーリズムで有名な都市になりました。それでも、本書で示したサステナブルツーリズムの視点や体験型・交流型観光へのシフトは、地方観光地でも今なお外国人誘致に役立つと考えています。

いわゆる“M字カーブ”の経歴をたどってきた私にとって、仕事をしながら大学院で研究し論文を執筆する経験は新鮮で、自分の人生を取り戻したかのような感動の連続でした。

その気持ちを今は、少し忘れかけている自分を反省し、鈴鹿大学や大学院に在籍する皆さんは、こうした感動を味わっているのだろうかと思っています。